

# 【SSH】令和7年度 探究成果発表会（1・2年次）開催報告

本校では、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業の一環として、生徒自身が課題を設定し、科学的な手法で解決を目指す「探究活動」に取り組んでいます。この度、1年間の研究成果を発表する「探究成果発表会」を、多くの専門家や地域の皆様をお招きして実施いたしました。

## ■ 2年次「理数探究」成果発表会

- 日時：令和8年2月6日（金）

2年次は、これまで取り組んできた課題研究の集大成となるポスター発表を行いました。

当日は、SSH運営指導委員である東京農工大学名誉教授の朝倉様、県立生命の星・地球博物館元館長の平田様に加え、連携機関として国際医療福祉大学、鈴廣蒲鉾、花王株式会社の研究者の方々にもご参加いただきました。



生徒たちは、第一線で活躍する専門家に対して自分たちの研究成果を堂々と説明し、「実験条件の妥当性」や「データの解釈」について専門的な視点からの鋭い助言をいただきました。

全体の講評では、平田様より「研究を楽しむ姿勢」、「科学的な手続きの重要性」、「研究者に質問する際のマナー」について温かいお言葉をいただき、生徒たちは次なる学びへの意欲を新たにしていました。

## ■ 1年次「理数探究基礎」成果発表会

- 日時：令和8年2月10日（火）

1年次は、探究の基礎プロセスを学んだ成果として、初めてのポスター発表に臨みました。

この日の最大の特徴は、「2年次生によるメンタリング」です。2年次生が「良き先輩」としてアドバイスを送ることで、学年を超えた縦の学び合いが生まれました。

また、全体講評では、鈴廣かまぼこ魚肉たんぱく研究所の植木所長より、研究者としての視点から「問い合わせを深めることの面白さ」についてお話しいただき、1年次生にとって今後の探究活動の指針となる貴重な機会となりました。

## ■ 地域に開かれた探究活動へ

両日とも、学校運営協議会委員、同窓会、他校の教員、そして多くの保護者の皆様にご来校いただきました。

生徒たちが多様な大人たちと対話し、多角的なフィードバックを得ることは、SSHが目指す「社会とつながる科学技術人材」の育成に不可欠です。

アンケートでは「生徒がいきいきと発表する姿に感動した」「年々レベルが上がっている」といった感想も寄せられました。

本校では、いただいた多くの助言を次年度のカリキュラムに反映させ、今後も地域・大学・企業と連携した質の高い探究活動を推進してまいります。

ご参観・ご指導いただいた皆様、誠にありがとうございました。

